

<平成 26 年 6 月 20 日発表>

博多祇園山笠『十四番山笠ソラリア』奉納

～ダイナミックな戦国合戦と、優雅な万葉の世界観を描きます～

- 西日本鉄道(株)では、平成 26 年 7 月 1 日(火)から 14 日(月)までの期間中、当社が運営する商業施設「ソラリアプラザ」の 1 階イベント広場「ゼファ」において、飾り山笠「十四番山笠ソラリア」を奉納・披露いたします。
- 表の標題...「おもて賤ヶ岳しずがたけ之の大決戦だいきっせん ～かんべえぶゆうのほまれ官兵衛武勇之誉のほまれ～」
織田信長亡き後、継承者を争う羽柴秀吉軍と柴田勝家軍が衝突した「賤ヶ岳の戦い」を舞台に、この合戦への参戦が昨年明らかになった黒田官兵衛や、一番槍を名乗り武功を挙げた加藤清正と山路将監しょうげんの組討ちを中心とした激闘の様をダイナミックに表現します。
- 見送の標題...「みおくり大宰府だざいふ花咲筑紫にはなさくつくしまんよう万葉」
本年 3 月 22 日に運行を開始した太宰府観光列車「旅人-たびと-」の名前の由来となった大伴旅人をはじめ、その息子・家持や筑前守・山上憶良など、万葉集にゆかりの深い筑紫路。大宰帥・大伴旅人邸にて梅の花を題材にした歌会「梅花の宴」の様子を「ソラリア」に描きます。
- 屋内に設置する「十四番山笠ソラリア」は、天候を気にすることなくゆっくりとご覧いただけ、毎年多くの来館者の方にお楽しみいただいております。また、福岡市博物館の協力による「山笠歴史紹介パネル展示」も同時に開催いたしますので、ぜひソラリアプラザ 1 階「ゼファ」に足を運んでいただき、博多を代表する祭である「博多祇園山笠」の迫力をご鑑賞ください。

■ 平成 26 年度博多祇園山笠 飾り山笠「十四番山笠ソラリア」奉納・披露について

- 【期 間】 平成 26 年 7 月 1 日(火)～14 日(月)
- 【場 所】 ソラリアプラザ 1 階イベント広場「ゼファ」(福岡市中央区天神二丁目 2-43)
- 【名 称】 「十四番山笠ソラリア」
- 【標 題】 表 : 「賤ヶ岳之大決戦(しずがたけのだいきっせん)
～官兵衛武勇之誉(かんべえぶゆうのほまれ)～」
見送: 「大宰府花咲筑紫万葉(だざいふにはなさくつくしまんよう)」
- 【製 作 者】 表 : 博多人形師 置鮎 正弘(おきあゆ まさひろ)氏
見送 : 博多人形師 小嶋 慎二(こじま しんじ)氏
山大工棟梁: 日高 保行(ひだか やすゆき)氏
- 【その他イベント】 ○山笠歴史紹介パネル展示(協力:福岡市博物館)
〔展示場所〕 ソラリアプラザ 1 階イベント広場「ゼファ」
〔展示期間〕 7 月 1 日(月)～14 日(日)
○大宰府万葉会による筑紫歌壇朗詠会 梅花の宴(協力:大宰府万葉会)
〔開催場所〕 ソラリアプラザ 1 階イベント広場「ゼファ」ソラリア山笠横ステージ
〔開催日時〕 7 月 5 日(土)16 時～(40 分程度)
梅花の宴に倣い、当時の衣装をまとして万葉歌を朗詠いたします。

■ 今後のスケジュール

平成 26 年 6 月 25 日(水) 9:30～ 棒締め
 6 月 27 日(金)～30 日(月) 飾りつけ
 7 月 1 日(火) 10:00～ 御神入れ
 7 月 1 日(火)～14 日(月) 飾り山笠披露

※場所はいずれも、ソラリアプラザ 1 階イベント広場「ゼファ」にて行います。

■ 飾り山笠「十四番山笠ソラリア」完成予定図



表…賤ヶ岳之大決戦～官兵衛武勇之誉～

見送…大宰府花咲筑紫万葉

(参考) 黒田官兵衛と賤ヶ岳(滋賀県長浜市)の関わりについて

① 賤ヶ岳合戦への参戦

昨年 5 月に長浜市が購入した文書により、賤ヶ岳合戦への官兵衛参陣が明らかになった。(現在は長浜城歴史博物館で展示中)

② 曾祖父の代まで長浜市に居住

官兵衛から遡ること 8 代前、佐々木氏から分かれた京極氏を祖とする源宗満(宗清)が伊香郡黒田村(滋賀県長浜市木之本町黒田)に居を置いたのが黒田家の始祖。宗清公より数えて 6 代目の高政公の時代に備前邑久郡福岡村に移り住むまでの約 200 年間は、黒田氏が 6 代にわたり居を構えていた。

③ 子・長政(幼名松寿丸)が人質として長浜城にいた

織田信長への忠誠を示すため、人質として官兵衛の嫡男・長政(幼名松寿丸、のちの福岡藩初代藩主)が織田氏家臣・羽柴秀吉の居城・長浜城に預けられた。

表:「賤ヶ岳之大決戦(しずがたけのだいけっせん)～官兵衛武勇之誉(かんべえぶゆうのほまれ)～」

天正十年六月二十七日山崎合戦の後、本能寺の変で明智光秀によって倒された織田信長の後継者を定めるため、信長の重臣たちが尾張清州城に集まり清州会議が行われました。羽柴秀吉は集まった家臣団の中でも優位に立ち、信長の嫡孫三法師(秀信)を後継者と決めましたが、信長の三男信孝を後援していた柴田勝家との間でしこりが残った事により、天正十一年四月二十日、二十一日に賤ヶ岳合戦が起こります。秀吉はこの賤ヶ岳合戦に勝利し天下統一の道を実確なものにし、地位を不動のものとししました。

秀吉は賤ヶ岳合戦の直前に今後の戦略についての指示を記した指令書を弟の羽柴秀長に出しました。その中に黒田官兵衛の名前も記されており、この書状が見つかった事で黒田家譜でしか確認できていなかった賤ヶ岳合戦への黒田官兵衛参陣が明らかになりました。

場面：賤ヶ岳における加藤清正、山路将監の組討ち

賤ヶ岳において「加藤清正一番槍」と名乗り、片鎌の大身の槍をひっさげ、清正は群がる敵の真只中へ。

清正はあたる敵を次々と突きまくったため討たれる多数。

清正は敵の首級を藤蔓に結びつけ敵将を物色中、清水口にて敵の猛将山路将監を見つけ出します。敵としては不足なし、「将監いざ参れ」と槍を捻って繰出せば、将監もさるもの互いに虚々実々の秘術を尽くしましたが勝敗は決しません。

豪気な清正が槍を打ち捨て将監に組み付き、互いに揉み合う中、清正の兜が躑躅の大株に引っかかります。

あわや将監逃げようとしたのですが、清正首が切れるか兜がとれるか運は試しとばかりに、逃げる将監に組みついたその時、清正の兜の緒が切れました。

上になり下になり、組み付きながら谷間に落ち、尚も必死の組討ちで清正の力が将監に勝り、遂に清正は将監の首を落し功名を挙げました。

登場人物：羽柴秀吉、柴田勝家、加藤清正、山路将監、黒田官兵衛

見送:「大宰府花咲筑紫万葉(だざいふにはなさくつくしまんよう)」

わが国最古の歌集である『万葉集』は、仁徳天皇の時代から天平宝字三年までの四千五百首あまりを、全二十巻に収録しています。撰者については諸説がありますが、現在の形に近いものに整えたのは大伴家持と考えられています。

その中で大宰府を舞台にして詠まれた歌が二百首あまりあります。当時の大宰府には家持の父である大宰帥大伴旅人、筑前守山上憶良、造観世音寺別当沙弥満誓、大伴坂上郎女らをはじめとする万葉集を代表する歌人が集まり、彼らの生活圏にちなんで、「万葉集筑紫歌壇」と呼ばれています。

天平二年正月十三日、大宰帥大伴旅人の館に三十二人の大宰府や九州諸国の役人等が集まり、咲きはじめて梅をテーマに歌を詠む宴である「梅花の宴」が開かれました。宴のテーマとなった梅は、当時は白梅のみで、中国から渡ってきたばかりの珍しい花でした。それを中国の歌宴の形式で、和歌を詠むといったところに、大陸文化がいち早く伝わってきた大宰府の特色があらわれています。

大伴家持は当時十二歳位で、父に従い大宰府にいましたが、大宰府で母を亡くし、西下してきた叔母の大伴坂上郎女に育てられたとされています。大宰府で多感な時期を過ごした家持は、大宰府が置かれていた国際的な政治情勢による当時の世情を身をもって体験しており、『万葉集』には東国から徴集され、遠く筑紫の地で国土防衛に当たっていた防人の歌が数多く載せられています。

※だざいふの表記は通例に従い歴史的な用語として「大宰府」を、地理的な用語として「太宰府」を使用しております。

登場人物：大宰帥大伴旅人、筑前守山上憶良、造観世音寺別当沙弥満誓、大伴坂上郎女、大伴家持